

# 令和元年度第1回庄原市「学びの変革」推進協議会 兼 第2回庄原市初任者研修会

令和元年7月2日（火） 庄原市立東城小学校

第1回庄原市「学びの変革」推進協議会については、本市児童生徒の「主体的な学び」を促進する教育活動を推進するとともに、学校全体で組織的なカリキュラム・マネジメントの実現に取り組むことを目的に、第2回庄原市初任者研修会については、先進的な授業を参観し、主体的な学びを促す授業づくりについて学び、今後の授業実践に役立てることを目的に研修会を行いました。

第3学年算数科の研究授業後は、第1回庄原市「学びの変革」推進協議会と第2回初任者研修会に別れて研究協議等を行いました。

**【研究授業】** 教科等：第3学年 算数科  
「棒グラフ～給食の好きなもの調べランキング！～」  
授業者：東城小学校 教諭 片山 博子  
教諭 神部 あかり

## ○第1回「学びの変革」推進協議会

**【研究協議】** 庄原市教育委員会教育指導課 指導主事 和田 杏奈

**【指導・助言】** 広島県北部教育事務所教育指導課 指導主事 宮地 隆治

**【講話】** 「カリキュラム・マネジメントに基づく授業改善の在り方」  
広島県教育委員会義務教育指導課 指導主事 川上 賢昭

## ○第2回庄原市初任者研修会

**【研究協議】** 庄原市教育委員会教育指導課 指導主事 伊澤 知弥



## 第1回庄原市「学びの变革」推進協議会



### 【グループ協議より】

- ◆児童に疑問をもたせ、課題意識をもって学習に取り組むことができるような導入であった。
- ◆適用題が1時間の学習内容をより深めたり思考を広げたりすることができるものであった。
- ◆対話を深めるために、話合いの目的を明確にする指示や切り返し発問等をさらに工夫する必要がある。



### 【指導・助言】

- ◆児童はグラフの縦軸の目盛をどうすればよいか考えることを通して、学びを深めたり広げたりしていた。
- ◆カリキュラム・マネジメントは、子供たちに資質・能力を育成するために実施するものである。本単元は、グラフを学ぶ意義を明確にするとともに、児童の表現力の育成などカリキュラム・マネジメントの視点を踏まえたものとなっている。



### 【講話】

- ◆各校が設定している資質・能力の育成に向け、カリキュラム・マネジメントを進める必要がある。「学びの变革」担当者は、カリキュラム・マネジメントの意義を校内に伝え、推進していく役割がある。
- ◆「学びの变革」を全教職員で進めていくため、各種学力調査の報告書やIPPO（校内研修支援プログラム）等を活用した校内研修のもち方について工夫していくこと。

### 【参加者の感想等】

- ◆授業を参観して、深い学びの実現と教科で身に付けさせたい資質・能力とのつながりが重要であることを再認識した。
- ◆授業参観が大変勉強になった。児童一人一人の資質・能力を高めるための授業づくりの工夫を本校でも取り入れていきたい。
- ◆カリキュラム・マネジメントを行い、総合的な学習の時間と各教科の学びをつないで単元開発をしていきたい。
- ◆研究授業や講話を通して、カリキュラム・マネジメントが児童の資質・能力を育成する上で重要であると感じることができる研修であった。

## 第2回庄原市初任者研修会



### 【参加者の感想等】

- ◆主体的な学びのために、児童の身近にある課題を取り上げたり、児童に課題を設定させたりすることが大切であることが授業を通して分かった。
- ◆苦手な児童に対する支援の工夫がたくさんあった。全ての子供が分かる授業をしていくため、子供の実態把握や事前の準備をしっかりしていきたい。
- ◆生徒の実態をよく研究し、「やってみたい!」と思える課題の設定を行い、計画的でつながりのある授業、そして誰もが安心して参加できる授業づくりをしていきたい。